



マユミ

「真弓」(ニシキギ科)

北海道～九州の丘陵から山地の林縁に生える落葉小高木。果実は熟すと4裂し、種子が出る。名前の由来は、枝がよくしなうため、弓を作ったことから。

箱根湿生花園の花だより

2018年11月15日 発行

今年度の開園期間は残り2週間となりました。園内では、リンドウやイソギクなどが小さな花を咲かせています。木々を見ると、マユミやムラサキシキブなどのかわいらしい木の実が晩秋を彩っています。

来月から当園は冬季休園となり、花だよりもしばらくお休みです。早春の開園時期には、ミズバショウやフクジュソウなど可憐な花が咲き始めます。どうぞお楽しみに！



『森のカフェ HAKONE オープン』

園内に「森のカフェ HAKONE」がオープンいたしました！サンドイッチなどの軽食やドリンク、箱根湿生花園で収穫したイチゴ「箱根りりか」を使ったデザートなど取り揃えております。お気軽にお立ち寄りください。営業時間 9:00～16:00 定休日 火・水

『箱根湿生花園ナイトパーク』 10/1(月)～11/30(金) 16:30～18:00

上記期間は、園内をライトアップし、開園時間を1時間延長して営業します。美しくライトアップされた園内をご家族やカップルでお楽しみいただけます。16:30以降に、御入園のお客様は、夜間特別料金500円(最終入園17:30)となります。



リンドウ

「竜胆」(リンドウ科)

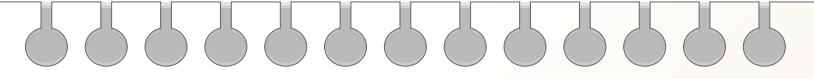
本州～九州の山野に生える多年草。花は日が当たったときだけ開き、夜や雨の時は閉じてしまう。根を乾燥させたものを漢方では竜胆(りゅうたん)と呼び薬用にする。



Pick Up ノジギク 「野路菊」キク科

ノジギクは本州(瀬戸内海沿岸)～九州の海岸の岩場に生える多年草です。西日本の海岸で比較的広く分布する野菊で、晩秋に清楚な白い花を咲かせます。1884年に植物学者、牧野富太郎が仁淀川で発見し、命名しました。強健な性質で、花つきがよいため庭に植えられることもあります。ノジギクの自生地では海岸の埋め立てなどがさかんに行なわれ、数が激減してしまったそうです。

箱根湿生花園では、高山のお花畑区で観察することができます。朝晩の冷え込みにも負けず、元気いっぱい咲いているノジギクをぜひ見に来てください。



File 15

アブラハヤ

コイ目 コイ科

園内の水路やママガヤ草原区の池に小さな魚が泳いでいます。メダカのように見えるかもしれませんがこれはアブラハヤの稚魚です。アブラハヤは主に河川の上流から中流域に生息する雑食性の淡水魚で、大きくなると体長は15cmほどになります。和名は体表の粘液が他の川魚より多く、触るとヌルヌルするので、油を塗ったハヤという意味から名付けられたといわれています。アブラハヤはどの河川でも生息していた種ですが、都市開発などで生息できる小規模な河川が減少してしまい、神奈川県レッドデータブックでは準絶滅危惧種に指定されています。



Botanical Gallery



イソギク

本州(千葉県～静岡県、伊豆諸島)の海岸の崖などに生える多年草。菊人形の着物によく使われる。



イヌウメモドキ

本州～九州の湿地または湿った落葉広葉樹林に生える落葉低木。ウメモドキと異なり、本種は全体に毛がないことが特徴。



ガマズミ

北海道(西南部)～九州の丘陵から山地に生える落葉低木。果実は赤く、食べられる。日本固有種。



シオデ

北海道～九州の山野に生える多年草。若芽は山菜として食べられ、果実は黒く熟す。雌雄異株。



シデコブシ(冬芽)

本州(東海地方の伊勢湾周辺地域)の湿地やその周辺に生える落葉小高木。冬芽は軟毛におおわれる。



ムラサキシキブ

北海道～沖縄の山野の林内や林縁の生える落葉低木。名前の由来は、紫色の果実を紫式部にたとえたことから。



湿生林区の様子(2018年11月14日現在)

木々の葉も落ち始め、園内もすっかり晩秋の雰囲気となりました。木道を歩きながら、移り変わる季節を感じてみてください。

ご利用案内

通常営業 9:00～17:00(最終入園16:30)
大人(中学生以上)700円 小人(小学生)400円

アクセス

小田原駅または、箱根湯本駅より箱根登山バス(湖尻・桃源台行)“仙石案内所前”下車、徒歩8分。強羅駅より箱根登山バス(湿生花園行)終点下車。東名高速道路・御殿場ICより、車で20分。

Hakone Botanical Garden of Wetlands

はこね湿生花園

〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 817

<http://hakonekanko.com/>